



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第 23 号・2005 年 10 月発行

北加日本語教師会 2005 年秋の例会

Saturday, November 12, 2005

San Francisco State University



会長の挨拶

異文化理解と日本語学習

南 雅彦

これから2年間、北加日本語教師会(Northern California Japanese Teachers' Association: 略称 NCJTA)の会長を務めさせていただく南です。どうぞよろしくお申し上げます。今日、世界各地で日本語を学ぶ人々の数は急速に増加しています。同時に、海外における日本語学習者が、その語学力を実際に活用する機会もますます多くなっています。私はサンフランシスコ州立大学(San Francisco State University: 略称 SFSU)で学部生に日本語を教えるだけでなく、日本語教師を目指す大学院生の教育にも携わっています。具体的に、SFSUでは会話、ビジネス日本語、言語学、文化、文学を含む初級から上級までの四年制学部クラスから、翻訳・通訳を中心とした日本語コースと日本語教師養成プログラムを有する大学院プログラムまで多彩なカリキュラムがあり、100人以上の日本語専攻の学部生と30人前後の大学院生が常時在籍しています。さらにSFSUでは、習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である「日本語能力試験」の北カリフォルニアの試験会場として2年前から日本語科を挙げて協力しています。西海岸の受験者は、以前はロサンゼルスまで行かなければなりませんでした。サンフランシスコで実施されるようになり、アメリカで8カ所の試験会場の中で2番目の規模を誇っています。

さて、11月12日(土)には Foreign Language Association of Northern California (略称 FLANC)が、

来年3月4日(土)、5日(日)には International Conference on Practical Linguistics of Japanese (略称 ICPLJ: 日本語実用言語学国際学会)が共にサンフランシスコ州立大学で開催されます。従来通り、NCJTA 秋の例会は午後2時10分から4時まで FLANC の一つのセッションとして開催予定です。また、春の例会は ICPLJ の二日目に合流して開催予定で、特にマグロイン・花岡直美先生に基調講演をお願いしてありますので皆様御期待ください。先日8月27日に College Preparatory School で行われた役員会では、秋、春の例会を通じて「日本文化、Popular Culture をどう紹介するか」を本年度のトピックと決定しました。私は SFSU で「言語と文化」という大学院レベルのセミナーを担当していますが、言葉と文化は表裏一体の関係です。今日の社会では地球的規模での共存が重要視され、異文化理解がますますその重要性を帯びています。たとえば、日米間の政治的、経済的結びつきが強くなるにつれ、2国間の人的レベルでの交流が深まるのも当然のことです。残念ながら、文化的相違に基づいた誤解は枚挙にいとまがないのも事実です。こうした誤解で絡まりあった糸をほぐすため、異文化コミュニケーションに卓越した人材を育成することが急務となっています。NCJTA がその一翼を担うことを、私は願っています。

私事になりますが、サンフランシスコに住むようになってもう8年以上になります。サンフランシスコに来る前は米国東海岸にあるボストン近郊のケンブリッジにも10年住んでいました。東海岸に住んでいた頃は、美術絵画の類を除いては東洋文化のアメリカ文化への影響をそれほど感じていませんでした。ところが、サンフランシスコに移り住んでみると、米国がアジアに面していることを色々な意味で痛切に感じるようになりました。おかげさ言えば、東海岸から西海岸に移り住んでみると、これまであまり知らなかった別の顔をした米国があることを発見しました。まず、サンフランシスコには至る所に大小の中華街が点在し、中国人、中国系米国人が非常に多く、また、日本町もあり日本人・日系米国人が非常

に多く住んでいることを日常生活で感じるようになりました。こうした環境にあって、異文化理解の重要性を再認識しました。

現在、日本では国際化が、教育やビジネスばかりでなく様々な分野で叫ばれていますが、アメリカにあって日本文化をより多くの人に伝えていくという役割を NCJTA が担えるよう、私も微力ながらお手伝いしたいと思っています。これを実現するには、日本語教育の経験豊富なベテランの諸先生や、これまでの NCJTA 会員の方々ばかりでなく、これから日本語教師を目指す大学生・大学院生、また、新しく日本語教師となった若い先生方の参加・協力も必要です。NCJTA がいままでの会員の方々の土台の上にたって、新しい、そして若い会員層を増やし、さまざまな年齢層や価値観で活発な会にすることに尽力する所存です。そうした活動を通じて、地域社会に貢献するという大切な役割を果たしていくことができると信じています。前述のように、言葉と文化というのは表裏一体の関係です。言葉というのは、ある意味では道具にすぎませんが、文化を伝達するという目的を果たすための大切な道具です。どんな形であれ、言葉を通して初めてコミュニケーションを深めることができ、日本語学習者が日本文化に興味を持ち理解できるようになるのです。こうした意味で、日本語教師という私たちの仕事は、継承言語としての日本語学習を含めて、日本語学習者に日本文化を知ってもらうきっかけを作るという大切な役割を担っています。NCJTA のさらなる発展のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。



2005年 春の例会報告：

榊原 晴子

春の例会は、4月10日(日)の1時から4時までサンフランシスコ州立大学で開催されました。役員会報告、役員選挙、新会則承認に続いて新役員の紹介と任期の確認後、「カタカナの教え方」に関連して3つ発表がありました。まず加州大デビス校、岩崎典子先生の「カタカナ教育の目的と方法」では、カタカナを教える目標をふまえた上で、さまざまな動機づけの方法が提案されました。簡単なカタカナの変換ルールを教えながら、学習者がカタカナに自主的に具体的にとりくめるように導入していくことや、ナマの教材を駆使してカタカナのおもしろさを伝えるなど、参考になる情報がたくさんありました。この発表で、ただ教科書に出て来るカタカナの暗記だけをさせる方法では、学習者の積極的な思考力を育てられないと気づかされました。次にパシフィックアカデミーの飯村弘子先生が、「カタカナの実物教材」を見せて下さいました。これは、新聞広告の切り抜きで、新しいカタカナにいつも楽しく触れさせる方法で、中、高校生には特に役に立ちそうでした。最後に加州大パークレー校の尾本康裕先生がご自身のサイト「日本語ウェブ」<http://www.nihongoweb.com/>にあるカタカナ教材を紹介して下さいました。

2005年 春の役員会報告

11月12日(土)FLANC/NCJTAの秋の例会(サンフランシスコ州立大学)の確認。

NCJTAの例会は2:10より4:00ごろで、テーマは、「アニメの使用法」をめぐってパネル・ディスカッション。来年度の春の例会は、実用言語学会の一部として開催されるが、その時にも文化を教える方法としてのアニメの使い方について、講義を依頼する事を検討した。また、日米タイムズへの月一回の連載「日本語教育の現在とこれから」は順調に運んでおり、来年度の執筆者を募集中。

興味をお持ちの方は、是非榊原までご連絡下さい。

(hosakakibara@ucdavis.edu)

なお、以前尾本先生が友人に依頼して下さったNCJTAのロゴを二つとも、今後使用していく事に決定。今回のニュースレターから使用開始。

(書記：榊原)



言葉の窓 第六回

日本語表現の曖昧さ

サンフランシスコ市立大学
グラント 文子

英語のやり取りで自分でははっきりと答えを出したはずなのに長い私の返事が終わったとたん相手のアメリカ人から“**So**, do you want this or not?”と聞き返されて、結局“No, I don't, but thank you.”と話を終える。何のために私は長広舌をふるったのか。ちょっとがっかりしてしまう、どうも後味のわるいものです。日本語が母国語の方には少なからずこのような経験をなさったことがあるかと思います。日本語の文型にはこうした表現がたくさん見られます。『行かないわけではないのですが—』ぐらいならまだ日本語学習者はついて行けるようですが、『行かないのではないのでしょうか』もっとひどくなると『行かないのではないのだろうかと思わないわけには行きません』という表現まで存在します。こうなると否定形が4箇所も入っていて学習者にはまるでパズルを解くような作業になります。果たしてこの人は行くのだろうか、行くだろうけど行かないかもしれないと思われているのだろうか。行かないだろうけど行くかもしれないなどともう学生にすれば会話として話しを進めるどころではなくなくなってきます。

日本人は明瞭にものを言わないと言われていました。これは自分が確固たる意志がなくて意思表示ができないのではなく相手を傷つけまいという思いやりから生まれた「思いやりの文化」から来ていることは周知のところですが。もちろん、思いやりが一方的に働くわけではなく、相手にもその思いやりで自分を理解してほしいというどちらかと言えば駆け引き的な魂胆は充分に存在していると言ってもよいのではないのでしょうか。

Edward Hall という研究者が、80年代後半にインフォメーションの伝達過程について情報伝達のための環境設定 (context) そのものが情報の一部であり、その環境と言語活動 (event) が一体になって初めて情報が伝達されるという分析をしました。そしてこの言語活動と環境設定のバランスは、その国の文化によって異なり、明確な言語表現によって情報交換がなされる社会を「low context」文化と呼び、アメリカやドイツ、スイス、ヨーロッパの北歐諸国等を例として挙げています。これに対して日本やアラブ、地中海諸国は「high context」文化であり、人間関係がインフォーマルで密であるため、明確な言語活動が過ぎると逆に人は不愉快に感じたり馬鹿にされたような気になるという分析です。つまり、そこには明確な環境が設定されているという前提が存在するわけです。

では、その前提とは何でしょうか。それはいわゆる non-verbal communication と言語自体の表現法ということでしょうか。身振り手振りのジェスチャーや顔の表情、『ちょっとー』に見られる日本語特有の断りの表現法などが考えられます。金田一晴彦は『日本語を反省してみませんか』という著書のなかで「イタリア人は両手を縛るとしゃべれなくなると言われていて、イタリア語で話すとき両手や表情をいっぱいにつかって話しますが、日本人は表情に乏しく手ぶり身振りをあまりつかいません。それは多分日本人は自分の気持ちを大げさに表現する必要がないからでしょう」と語っています。

上述の異文化比較からわかることは、日本語の表現法自体の理解がいかん情報伝達にとって重要であるかということです。日本語表現法に見られる「曖昧さ」を軽視しては真のコミュニケーションに基づく日本語指導はできないと思います。この「曖昧」表現をクラスで取り扱うたびに「なんと無駄な」と言わんばかりの学生の表情に負けてはいられません。次回こそもっと上手に説明するぞと思う昨今です。



2005 年 Workshop / イベント

- Foreign Language Association of Northern California (FLANC)
日時：11月12日(土)
場所：サンフランシスコ州立大学 (New Humanities Building)

Registration:	8:30 a.m. – 9:00 a.m.
1 st Session:	9:30 a.m. – 9:50 a.m.
Welcome:	10:10 a.m. – 10:30 a.m.
Exhibition:	10:30 a.m. – 11:00 a.m.
2 nd Session:	11:00 a.m. – 11:50 a.m.
Lunch/Exhibition:	11:50 a.m. – 1:00 p.m.
3 rd Session:	1:00 p.m. – 1:50 p.m.
Exhibition:	1:50 p.m. – 2:00 p.m.
4 th Session/NCJTA Meeting:	2:10 p.m. – 4:00 p.m.

従来通り、NCJTA 秋の例会は午後2時10分から4時まで FLANC の一つのセッションとして行います。「日本文化、Popular Culture をどう紹介するか」がトピックで、北加日本語教師会の会長南先生や Odyssey Middle School の今瀬先生がパネル・ディスカッションを行いますので、どうか御期待ください。

- American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) 2005 Annual Meeting and Exposition
日時：11月18日(火) - 20日(木)
場所：Maryland 州、Baltimore、Baltimore Convention Center and Hyatt Regency
- International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ: 日本語実用言語学国際学会)
日時：3月4日(土)、5日(日)
場所：サンフランシスコ州立大学 (New Humanities Building)
サンフランシスコ州立大学外国語学部日本語科では、3月4日(土曜日)、5日(日曜日)の両日にわたり、第5回「日本語実用言語学国際学会」5th International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ5) を開催します。日本語実用言語学国際学会は国際的にも認知されている学会です。第4回大会 (ICPLJ4) は去る2004年4月に開催いたしました。アメリカをはじめ日本を含め海外からの研究発表が多数あり大盛況となりました。研究発表論文を中心に編纂した「言語学と日本語教育 IV」が言語学関係では有名な東京のくろしお出版から最近刊行されました (是非、この機会にご購入ください)。今回、第5回大会でも、マグロイン・花岡直美先生による基調講演を予定しています。また、従来通り、NCJTA 春の例会は ICPLJ の二日目に合流し、本年度の一貫したトピックである「日本文化をどう紹介するか」を引き続き議論することになります。
- ICPLJ ばかりでなく来春はサンフランシスコで大きな学会が目白押しです。皆様奮ってご参加ください。
 - Association for Asian Studies (AAS) Annual Meeting
日時：4月6日(木) - 9日(日)
場所：San Francisco Marriott
従来は Association of Teachers of Japanese (ATJ) は AAS の前に開催されていたのですが、今回は8月5日(土)、6日(日)に New York の Columbia University で行われます。
 - American Educational Research Association (AERA) Annual Meeting
日時：4月7日(金) - 11日(火)
場所：Moscone Center (Headquarters)

CAJLT Workshop for Developing Classroom activities incorporating use of Critical thinking skills and Preparing for teaching AP Japanese Course.

Lecturers

Dr. Hiroko Kataoka, Professor, California State University, Long Beach

Dr. Yasu-Hiko Tohsaku Professor, University of California, San Diego

Date and Place

Los Angeles October 16th 10:00~4:00 at Cerritos High School

San Francisco October 23rd 10:00~4:00 at SF Japan Information Center

Fee

\$15.00(Member) \$25.00(Non-member)

Please send the application form with a check payable to CAJLT by October 7th(LA)/October 14th(SF).

First Come First Serve: Each site can take 40. Detailed information

will be sent to those who sent the application. Also please refer to the CAJLT website (www.cajlt.org) for up-to-date information.

参加ご希望の方は、下記のウェブサイトをご参照下さい。
<http://www.cajlt.org/pages/workshop.htm>

第32回日本語弁論大会について

第32回日本語弁論大会が、11月13日(日)に北加日米会 (Japanese American Association of Northern California : 略称 JAANC) 及び、在サンフランシスコ日本国総領事館主催で、同総領事館広報文化センター (Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105) において開催されます。今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。

大学・成人弁論大会の参加資格は、①18歳以上、②米国民権及び永住権保持者、③6歳以降2年以上日本に継続滞在経験のない方が対象です。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。入賞者には、賞金、及び上位3位にはトロフィーが授与されます。また、参加者の中から抽選で1名に日本航空より日本往復切符が授与されます。参加申込書ご希望の方は、北加日米会事務所 (415) 921-1782, ファックス (415) 931-1826, 内藤浄さん(415) 566-3792, naito@worldnet.att.net, または安田健彦さん(415) 409-0186 までご連絡ください。

(大学・成人部の出場申込書は同事務所で受け付けます。)

中高生の参加資格は、6歳以降1年以上日本に継続滞在経験のない人が対象です。入賞者には、賞状及び賞品が授与されます。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。参加申込書ご希望の方は、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センターにご連絡ください。(415) 356-2461, education@cgsf.org (中高生出場申込書は同センターで受け付けます。) 大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月21日(金)ですので、日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) について

国際交流基金 (Japan Foundation) では、日本語学習者を対象に日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) を1984年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでした。2年前からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました。今年の日本語能力試験は、ベイエリアでは、12月4日(日)にサンフランシスコ州立大学で実施されます。試験は、いちばん難易度の高いレベル1からいちばん難易度の低いレベル4まで4つのレベルに別れていますので、自分の能力に適したレベルを受験することができます。各レベルとも、「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3つのセクションから成り立っています。受験費用はレベル1と2が50ドル、レベル3と4が40ドルになっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルス Japan Foundation, Language Office まで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=23> をごらんいただくか、電話 (213) 621-2267、もしくは E-mail: noryoku@jflalc.org までご連絡ください。受験願書の受付は10月7日までとなっています。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

(サンフランシスコ州立大学 南 雅彦)



お知らせ

北加日本語教師会 2005 年秋の例会のお知らせ

Fall 2005 Conference:

新しい方、しばらくお休みの方を是非お誘いの上、いらして下さい。

11月12日(土曜) Saturday, Nov 12, 2:10-4:00 p.m.

場所: サンフランシスコ州立大学

San Francisco State University

行き方、校内図はこのサイトへどうぞ。

<http://www.sfsu.edu/~sfsumap/>

詳しい例会の内容は 2005 年 Workshop/イベントの欄をご覧ください。

メールリストの活用について

会では、メールリストの活用を開始しております。春と秋のニュースレターの間で、時間的にすぐ流した方が良いでしょう。日本文化に関するプレゼンテーションやコンサートなどを選んでお知らせや、例会の日時の確認のお知らせやニュースレターの記事募集などを予定しています。ただ、意見交換の目的では使用できませんのでご了承下さい。しばらくは、こちらに確認されているアドレスの整理をしていかななくてはなりませんので、どうぞ御協力下さい。担当者は尾本先生です。

役員改選についてのお知らせ

春の役員会において、各役員の改選の時期が確認されましたので、報告いたします。

2006 年春: 副会長、コミュニティーカレッジ代表、中学/小学校代表、土曜学校代表、ニュースレター編集員

2007 年春: 会長、書記、会計、大学代表、高校代表、FLANC 連絡委員

次回の選挙は 2006 年春となります。ご質問のある方は、役員までお問い合わせください。



教室に役立つアイデア

今瀬 博

Odyssey School (オデッセイ中学) サンマテオ

最近 10 日間の学校のキャンプから帰ってきました。キャンプでは自分の生徒の優れている所や足りない所がわかり、ますます教育に力が入る今日この頃です。どのクラスでもできるかわかりませんが、私がやっている事を紹介したいと思います。まずは、ストロークです。オ

デッセイ中学ではよくストロークをします。ストロークとは輪になって他の人に感謝の言葉を伝える事です。これは生徒にとって日本語を使える機会を与えるだけでなく、感謝の気持ちを伝える機会も与える事ができます。

「宿題を手伝ってくれてありがとう」「手作りクッキーとてもおいしかったよ」だけではなく、「グレースーさんの新しいヘアスタイルかわいいね」など、人を褒める事も加えても良いと思います。どの文型や語彙を使うかなどは、その時に学んでいる事を使ってもいいし、どういう風にストロークをしていくかも先生次第で面白くなります。私は単純に輪になってするストロークもしますが、紙に宛名だけ書いてストロークするというやり方もあります。こういったクラス・アクティビティーを通して、人に対する感謝の語彙を増やしてだけでなく、心も育成できると思います。

二つ目は、コンピューターのクラスと統合したやり方です。学校の駐車場にあるセンターラインの白線の上に日本語を書いていき、それを生徒自らがビデオ撮影します。生徒は普段ノートと鉛筆を使ってしか日本語を書かないので、喜んでそれぞれの書きたい事を書いていきます。私のクラスはちょうどコンピューターのクラスの前のので、DV カメラから生徒の iBook に 1 分間ぐらいの長さをインポートしていきます。そして、それを生徒自身がそれぞれ iMovie を使って編集していきます。クラス内で終わらない時は宿題にし、次回、編集したのを見ていきます。色々な音楽をつけたり、エフェクトをつけたり、どうやって編集したかを話し合います。そして、普段、学校の事をあまり話さない中学生の親にとって、そういったものを保護者会の時など見る事ができる事はとても嬉しい事ではないでしょうか。



先生の紹介欄

斉藤真由美先生の紹介

1. 日本語教師をしていてよかったなと思う事はなんですか

自分に自信がなかった学生が日本語を学ぶ事を通して、自信がつき、明るくなっていく過程に参加できた時、日本語教師をしていてよかったなと思います。

また、在米 20 年になりますが、日本語を教える事で、日本人としてアメリカ社会に少しでも貢献できてよかったと感じます。

2. 教育に関しての信念を教えてください。

学生が何を必要としているかを把握し、知識をこちらから与えるのではなく、学生が自ら学ぶのを手伝うようにしています。

3. 最近読んだ本はなんですか。

“Kite Runner” by Khaled Hosseini

“The Da Vinci Code” by Dan Brown
“靖国問題 “高橋哲哉
“希望格差社会” 山田昌弘などが面白かったです。

4. 趣味はなんですか。

旅行、映画鑑賞、読書、ヨガ、フランス語の勉強などです。

5. 会員の皆さんへメッセージをお願いします。

毎日の授業に追われて、自分の殻に閉じこもりがちな私にとって、NCJTAの例会、FLANCの学会などで、皆さんお会いし、お話しを伺う事は、とても貴重な経験です。

今年度より会計を担当いたします。ご意見、ご質問等は、msaito@ucdavis.edu または (530) 753-8181 までお願いいたします。

今瀬博先生の紹介

1. 日本語教師なられたきっかけは、何ですか。

サンフランシスコ州立大学で、二人の良い先生に会ったのがきっかけです。犯罪社会学が専攻でした。どきどきして最初のクラスに行ったら、Ken Walsh という教授がクリントイーストウッド演じるダーティハリーの物まねでクラスをずっとした事で、僕は「すごい」と思いました。オフィス・アワーに行っても優しく対応してくれた事も忘れられません。もう一人は Pr. Curtin です。犯罪社会学のデパートメントの Director で、この先生の教科書で2年間勉強しました。この教授は皆からとても怖がられていましたが、同時にとても尊敬されていました。この二人のクラスから通して学んだ事は犯罪社会学に関する知識だけでなく、価値観、世の中の見方、僕の人生に影響しました。卒業して、日本で警察官になりたかったのですが、日本語を通して、何か僕が持っている日本の価値観を子供たちに学んでもらいたいと思って教師になりました。

2. 授業でどういう点に一番気をつけていらっしゃいますか。

クラスでは生徒たちに飽きさせないように次から次へアクティビティを変えていくことくらいと、あとは楽しく学んでもらえるように、授業を準備する事ですかね。でも、一番大切なのは8年生になったら日本に3週間修学旅行に出るので、それに向けてのゴールをしっかり持たせることですね。

3. 余暇の過ごし方は。

週末などは料理したり、映画を見に行ったりします。後は、買い物とかですね。

4. 2010年までの目標は何ですか。

趣味を確立する事ですね。カメラが好きで、自分で現像したりとか。仕事はいつも精一杯やっているの、どちらかというと、プライベートを充実したいですね。

5. 会員の皆さんへのメッセージをお願いします。

中学校での現場の意見をどんどん聞いてもらいたいです。



情報交換

のびる会ではJapanese Caféを始めました。これは、日本語学習者が日本語を話す練習をする場です。Caféスタイルで、お菓子とお茶を飲みながら、日本人と会話を楽しんでください。

日時：毎月 第1と第3土曜日 2時半から3時半
場所：のびる会オフィス

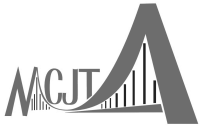
1840 Sutter St. #207 SF 415-922-2033

編集後記

新学期が始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニュースレターには新メンバーも加わり、より一層、日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様のご意見、ご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げます。どうかお気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南もしくは田中までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

田中：manami_t@ix.netcom.com



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学 San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451
<http://userwww.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長： Masahiko Minami 南雅彦 (同上)

副会長： Ikuko Tomita 富田育子
Foothill College
Tel:(650) 949-7043
E-mail:tomitaikuko@foothill.edu

書記： Haruko Sakakibara 榊原晴子
Dept. of East Asian Language and Literature,
University of California, Davis
Davis, CA, 95616-8560
Tel:(530) 752-4129 FAX: (530)-752-8630
E-mail: hosakakibara@ucdavis.edu

会計： Mayumi Saito 斎藤真由美
2105 Saratoga Place, Davis, CA 95616
E-mail: msaito@ucdavis.edu

フランク連絡員/コミュニティーカレッジ代表兼任:
Yoko Clark 芳子クラーク
CSU Hayward
Tel:(510) 885-3229
E-mail:yokosclark@yahoo.com

ニュースレター編集委員：
Manami Tanaka 田中真奈美
Tel:(415) 387-2793
E-mail:manami_t@ix.netcom.com

<各レベル代表>

小学校：

Hiroko Iimura 飯村弘子
Pacific Academy Nomura School
Tel:(510)528-1727
E-mail:hiimura@pacificacademy.com

中学校：

Hiroshi Imasse 今瀬博
Odyssey School
Tel:(650)548-1500
E-mail: hitoimase@yahoo.co.jp

高校代表：

Atsuko Morse モールス厚子
The College Preparatory School
Tel:(510-652-0111)
E-mail:ahmorse@aol.com

学園代表：

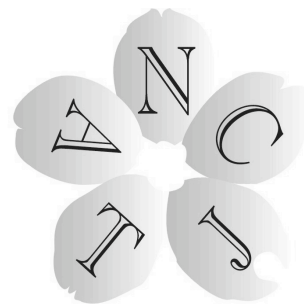
Mikiko Shimabe 島邊美紀子
San Jose Betsuin Lang.School
Tel:(408) 227-3371
E-mail:shimabe@attglobal.net

コミュニティーカレッジ代表

Yoko Clark 芳子クラーク
CSU Hayward
Tel:(510) 885-3229

大学代表：

Yasuhiro Omoto 尾本康裕
UC Berkeley
Tel:(510) 643-0783
E-mail: yomoto@niongoweb.com
<http://www.nihongoweb.com>



Northern California Japanese Teachers' Association